

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 該当なし				
(著書(和文)) 1. 公認心理師基礎と 実践シリーズ⑩: 司法・犯罪心理学第 2版 2. 臨床心理学スタン ダードテキスト 3. 司法・犯罪心理学 4. 公認心理師基礎と 実践シリーズ⑩: 司法・犯罪心理学 5. 素行障害:診断と治 療のガイドライン 6. 犯罪統計入門第2版 7. 犯罪・非行の心理学 8. 犯罪統計入門初版	共著 共著 共著 共著 共著 共著 共著 共著	刊行時期未定 (2023年中刊 行予定) 2023年2月 2020年10月 2019年3月 2013年3月 2013年2月 2007年3月 2007年1月	遠見書房 金剛出版 有斐閣 遠見書房 金剛出版 日本評論社 有斐閣 日本評論社	分担執筆:岡本編,共著者14名 第3章「犯罪・非行の心理アセス メント」pp.42-54を内容を改訂執筆。 分担執筆:岩壁ほか(編)共著者多 数 15-1 心理的アセスメントの目 的・倫理の執筆担当。 分担執筆:藤岡編,共著者16名 第13章「犯罪者・非行少年のアセ スメント」pp.205-218を執筆。 分担執筆:岡本編,共著者14名 第3章「犯罪・非行の心理アセ スメント」pp.39-50を執筆。 分担執筆:斉藤(編),共著者多数 第II部素行障害の評価・診断中,人 格検査リスクアセスメントpp.91-97 を執筆。 分担執筆:浜井(編著),岡田,吉 田,大場,島田,寺村,森,津富, 藤井 第5章「もう一つの犯罪 統計:公衆衛生・疫学的視点から みた暴力」pp.137-157を執筆(2版 では初版時からのデータ等を更新し, 内容を一部修正)。 分担執筆:藤岡(編著),朝比奈, 松本,田中,橋本,大場,渡邊,森 本,寺村,今村,飛鳥井 第10章「犯罪者非行少年のアセ スメント」pp.193-212を執筆。 上記3の初版本。
(学術論文(欧文)) 該当なし				

(学術論文(和文))				
1. RNRモデル：再犯防止や社会復帰支援を効果的に推進するための方法論	単著	2017年11月	臨床心理学, 17(6), 763-767.	再犯防止に効果があるとされるRNRモデルに基づく犯罪者処遇の基本原則、実務及び処遇効果や費用便益に関する評価研究の知見をレビューした。(査読有)
2. 刑務所出所者等の社会復帰支援	単著	2012年12月	刑政, 123(12), 14-28.	平成24年版犯罪白書から犯罪情勢に関する基礎統計の動向及び社会復帰支援に係る特別調査結果の概要を解説した。(査読無)
3. GPS方式による犯罪者の位置情報確認	単著	2011年11月	犯罪と非行, 107, 217-230.	法務総合研究所において実施した欧米7か国の犯罪者の電子監視の法制度、実務、実証研究の知見をGPS方式によるものに絞って報告した。(査読有)
4. 薬物問題への治療的処遇を介して青少年の育ちを支える	単著	2009年7月	青少年問題, 635, 20-25.	少年矯正施設に収容される非行少年の薬物乱用の実態、背景要因等の分析から治療的処遇に効果を上げるための方策を提言した。(査読有)
5. 非行少女の性虐待体験と支援方法について	共著	2006年12月	子どもの虐待とネグレクト, 8(3), 334-342.	共著：藤岡淳子、寺村堅志 女子少年院在院者の性行動や性被害体験に関するアンケート調査を行い、トラウマティックな体験への手当てを行いつつ更生支援を図る方策を提言した。(査読有)
6. 香港の性犯罪者処遇プログラムについて	単著	2005年10月	刑政, 116(10), 44-54.	香港の矯正実務調査の一環として行った認知行動療法に基づく性犯罪者処遇プログラムの導入経緯や実務内容を報告し、本邦における認知行動療法による専門プログラム導入の必要性や課題等を提言した。(査読無)
7. 効果的な薬物乱用者処遇をめざして(下)	単著	2003年12月	刑政, 114(12), 30-37.	国連アジア極東犯罪防止研修所に招へいした薬物乱用防止に関する海外専門家の講義から国連の薬物統制施策、欧州における薬物乱用対策、効果的な薬物乱用防止プログラムや介入(TC, マトリクスモデル, 動機づけ面接法等)の動向を紹介し、本邦刑事司法分野、特に矯正処遇における薬物乱用者処遇の課題等について提言した。(査読無)
8. 効果的な薬物乱用者処遇をめざして(下)	単著	2003年11月	刑政, 114(11), 22-34.	

9. 包括システムによる ロールシャッハ・テ ストでの日本人一般 成人の記述統計資料	共著	1998年3月	包括システムによる 日本ロールシャッハ 学会誌, 2, 74-78.	共著：佐藤・寺村・中村・藤岡・佐 藤・岩井・市川・渡辺・内田 包括システムで施行収集した一般成 人のロールシャッハテストの諸変数 記述統計表を公開し、解釈等の基準 の参考とした。（査読有）
10. 刑務所暴動；諸外国 の状況と要因	単著	1995年5月	刑政, 106(5) , 118-124.	北米・南米地域で起こった主要な刑 務所暴動の発生状況を紹介し、暴動 や騒擾が生起する要因をアメリカ矯 正協会の暴動対策マニュアルに従い 整理し、事故を未然に防ぐための方 策を考察した。（査読無）
11. Exner法による児 童・青年期のロール シャッハノーマル データの基礎研究	共著	1993年7月	安田生命事業団助成 論文集, 28, 70- 75.	共著：中村, 佐藤, 藤岡, 寺村, 木 村, 紀, 永井, 岩井, 中村 包括システムロールシャッハ法によ る青少年の一般集団のデータ収集を 行い、ロールシャッハ諸変数の記述 統計を基準データとして公開した。 （査読無）
(紀要論文)				
1. 少年鑑別所の地域援 助に関する調査研究 ：児童・生徒等の子 供を持つ保護者に対 する全国Web意識調 査から	共著	2021年6月	矯正研究, 4, 124- 208.	共著：白永・寺村 少年鑑別所法制定から5年経過した 時点における、法務少年支援セン ターの地域援助業務についての認知 度や青少年の保護者の支援ニーズ等 について全国3000名の保護者にWeb意 識調査を行い、公的機関の支援ニー ズ等を分析した（調査の共同企画及 び原稿を共同執筆）。（査読無）
2. 知的障害のある犯罪 者の実態と処遇に関 する研究	共著	2014年3月	法務総合研究所 研究部報告52	共著：岡田・塩島・只野・田中・寺 村・清水・石川 知的障害のある受刑者の実態や処遇 状況把握のため包括的調査を行うと ともに、海外の関連実務の調査を行 い、本邦における知的障害のある受 刑者の処遇上の課題等について考察 した（矯正施設の特別調査及び英国 の関連実務調査報告を執筆）。（査 読無）
3. 無差別殺傷事犯に関 する研究	共著	2013年2月	法務総合研究所 研究部報告50	共著：野下・寺村・樫山・守谷・石 川・重山・名取・岸・若林 被害者と面識のない無差別的な通り 魔事件等52例の刑事事件記録等分析 を通じ、事件の背景要因や前兆行動 等に関する分析を行うとともに、同 様な事件の要因に関する海外の知見 や実務を調査し、予防方策等を考察 した（心理的特徴及び英国における 対策等の調査結果を執筆）。（査読 無）

4. 青少年の生活意識と価値観に関する研究	共著	2012年6月	法務総合研究所 研究部報告46	共著：寺村・瀧澤・石川・重山・藤原 一般青少年と非行・犯罪をした青少年の生活意識の経年変化を質問紙調査で把握するとともに、犯罪白書平成23年版特別調査の統計分析等を行い、犯罪集団の意識を踏まえた更生支援方策等を考察した（特別調査を実施し、調査結果の概要を執筆）。（査読無）
5. 諸外国における位置情報確認制度に関する研究	共著	2011年12月	法務総合研究所 研究部報告44	共著：寺村・樫山・岸・藤原・竹田・作原・渡邊・田島 欧米7か国における犯罪者の電子監視の導入経緯，法制度，実務，実証研究の知見等を包括的に調査し，本邦における政策決定の参考資料とした（アメリカ及びカナダの現地調査及び同国の調査報告を執筆）。（査読無）
6. Research on the trends in drug abuse and effective measures for the treatment of the drug abusers in Asian countries.	共著	2005年6月	UNAFEI	共著：下記7に同じ。 下記7を英語圏の実務家等の参考とするため英文に翻訳（抄訳）して公開したもの。（査読無）
7. アジア地域における薬物乱用の動向と効果的な薬物乱用者処遇対策に関する調査研究	共著	2004年4月	法務総合研究所 研究部報告27	共著：横地・小柳・染田・寺村・栗山・藤野 法務総合研究所研究部と国連アジア極東犯罪防止研修所の共同調査。東南アジア各国の薬物乱用者対策を法制度や処遇実務面から調査し，本邦に効果的な処遇方策等について考察した（タイ及び香港を現地調査し，同国・地域の調査方向を執筆）。（査読無）
(辞書・翻訳書等)				
1. 新訂矯正用語事典	共著	2019年9月	東京法令	分担執筆：鴨下編，共著者多数 心理学関係35用語の解説を執筆。
2. 犯罪心理学事典	共著	2016年9月	丸善	日本犯罪心理学会編，著者多数 施設内処遇の部の編集及び「施設内処遇と心理学」，「犯罪者のリスクアセスメント」，「施設内処遇におけるRNRモデル」を執筆。
3. 施設内処遇に付された青少年の反社会的行動に対する認知行動療法	単訳	2015年3月	龍谷大学キャンベル 共同計画介入・政策 評価レビューNo. 9, 9-49.	アメリウス，B.A.による青少年犯罪者の認知行動療法の再犯抑止効果に関するキャンベル共同計画系統的レビューを訳出したもの。

4. 誠信心理学事典新版	共著	2014年9月	誠信書房	下山編，著者多数 「非行少年と犯罪者のアセスメント」の項目を執筆。
5. 法と心理学の事典	共著	2011年5月	朝倉書店	越智・渡邊・藤田編，著者多数 「再犯リスク評価」及び「薬物事犯者に対する施設内処遇」の項目を執筆。
6. カウンセリング実践ハンドブック	共著	2011年1月	丸善	松原編，共著者多数 「非行・犯罪のアセスメント」及び「RNR原則」の項目を執筆。
7. 改訂矯正用語事典	共著	2009年5月	東京法令出版	鴨下・松本ほか編，共著者多数。 各種検査等，30項目について執筆を担当。
8. エビデンスに基づく犯罪予防	共訳	2006年12月	社会安全研究財団	Sherman, L. W. et al. 2002. Evidence based Crime Prevention. Routledge. の共訳：津富，小林，島田，藤野，寺村，渡辺（第9章 犯罪者と非行少年の犯罪活動削減：裁判所と矯正における犯罪予防を翻訳）
9. マルチテラール心理学	共著	2006年6月	有斐閣	「心理学事典」及び下記8「新・心理学の基礎知識」を合体させて電子書籍化したもの。執筆箇所は下記8に同じ。
10. 新・心理学の基礎知識	共著	2005年1月	有斐閣	中島・繁樹，箱田編，共著者多数 「非行・犯罪へのアプローチ」の項目執筆担当。
11. エクスター法ロールシャッハ解釈の基礎	共訳	1995年3月	岩崎学術出版	Exner, J. E. The Rorschach : Comprehensive System Vol.2. の抄訳共訳：藤岡，佐藤，中村，寺村 認知的三側面の章の翻訳を担当。
(報告書・会報等)				
1. 刑事司法分野のより良き実践をめざして：エビデンスをつくり・つたえ・つかおう	単著	2022年3月	犯罪心理学研究 59(2), 50-77.	日本犯罪心理学会第3回全国研修会のパネルディスカッション等抄録。同研修会の企画・司会者として全体報告をとりまとめた。
2. 再非行・再犯を防止し立ち直りを支援するために	単著	2013年2月	日本臨床心理士会雑誌, 22(1), 65-66.	日本臨床心理士会第2回司法・法務・警察領域研修会分科会に講師として出講した際の講義抄録

<p>(国際学会発表)</p> <p>1. Offender classification and treatment planning that facilitate offender rehabilitation.</p> <p>2. A multivariate analysis of the Rorschach typologies among the Japanese delinquents.</p> <p>3. International comparison of the adolescents' Rorschach data between the U.S. and Japan.</p>	<p>単独発表 抄録なし</p> <p>単独発表 抄録なし</p> <p>共同発表 抄録なし</p>	<p>2002年12月</p> <p>1996年7月</p> <p>1993年7月</p>	<p>International Congress on Offender Rehabilitation in the 21st Century.</p> <p>XVth International Congress on the Rorschach and the Projective Methods.</p> <p>XIIth International Congress on the Rorschach and the Projective Methods.</p>	<p>香港犯罪者更生学会が主催した左記大会において、日本の受刑者分類制度や処遇制度を紹介し、再犯防止のためにRNR原則に従う査定・処遇枠組みを構築する必要性を報告した（口頭報告のみ）。</p> <p>国際投映法学会ボストン大会において、包括システムロールシャッハ法で施行した日本の非行少年のデータを多変量解析で分析し、ロールシャッハテスト特徴から非行少年の類型化した（ポスター報告のみ）。</p> <p>Sato, Y., Teramura, K., Nakamura, N., &amp; Fujioka, J. の共著報告。国際投映法学会スペイン大会において、包括システムによるアメリカと日本の青少年ロールシャッハデータの基準データの分布状況等の違い及びその要因を考察した（Satoによる口頭報告）</p>
<p>(国内学会発表)</p> <p>1. 刑事司法分野におけるリスクニーズアセスメントの倫理的課題</p> <p>2. プログラムで培った型や技を頑健な更生支援につなげよう</p> <p>3. 受刑生活をもたらす受刑者の人生目標の変容について</p> <p>4. ロールシャッハテストからみた性加害者の特徴</p> <p>5. 非行・犯罪臨床における重層的エビデンス・ベースの構築</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>共著</p> <p>抄録なし</p> <p>単著</p>	<p>2021年10月</p> <p>2018年12月</p> <p>2015年3月</p> <p>2014年5月</p> <p>2014年3月</p>	<p>犯罪心理学研究, 59, 142-143.</p> <p>犯罪心理学研究, 56, 264-265.</p> <p>犯罪心理学研究, 53, 90-91.</p> <p>包括システムによるロールシャッハ学会20回大会</p> <p>犯罪心理学研究, 52, 259-260.</p>	<p>犯罪臨床のリスクアセスメントでは、機械学習による予測モデル等新たな評価手法が登場しつつある中で、遵守すべき倫理的課題についてポスター報告により問題提起した。</p> <p>シンポジウムの指定討論者として、認知スキルプログラムR&amp;R2の本邦における導入の意義や効果検証の在り方等についてコメントした。</p> <p>共著：佐藤・広田・鍛冶・寺村 Good Lives Modelの観点から受刑開始期と受刑終結期の人生目標の変化等を捉え、更生支援上の処遇課題等を考察した。</p> <p>シンポジウムの指定討論者として、各シンポジストの所見について、海外のメタ分析等の知見を踏まえ調査上の課題等についてコメントした。</p> <p>シンポジウムの指定討論者として、各シンポジストの報告について、法則定立的アプローチと個性記述的アプローチを臨床実務上統合する方策についてコメントした。</p>

5. 刑事施設受刑者再犯リスクアセスメントのための基礎研究(2)	単著	2011年3月	犯罪心理学研究, 48, 200-201.	受刑者処遇調査データを海外のリスクアセスメントツールで調査されている再犯リスク要因の観点から遡及的に調査し, ロジスティック回帰分析等で成り行きを予測できるか検討した。
6. 刑事施設受刑者再犯リスクアセスメントのための基礎研究(1)	単著	2009年3月	犯罪心理学研究, 46, 160-161.	
7. 性暴力のアセスメント	単著	2005年3月	犯罪心理学研究, 43, 54-55.	性犯罪再犯研究の知見から, 性犯罪のリスクマネジメントの観点からのアセスメントが必要であり, 性犯罪専用のアセスメントツールを用いた査定・処遇枠組みの構築について提言した。
8. 薬物乱用者の効果的な処遇の推進について	単著	2004年3月	犯罪心理学研究, 42, 180-181.	薬物乱用者処遇の動向を踏まえたラウンドテーブルディスカッションを企画し, 本邦実務の目指すべき方向性を検討した。
9. 犯罪心理学研究の現状とこれから: 効果的な応差的処遇の実現に向けて	単著	2003年3月	犯罪心理学研究, 41, 223-235.	対象者の特性を踏まえた応差的処遇プロジェクトが途絶した要因を克服する枠組みとしてRNR原則に基づく処遇が有望資され, 本邦実務でも取り入れる必要性をシンポジウムパネリストとして提言した。
10. ロールシャッハテストによる中学生非行少年の人格特徴に関する研究(4)	共著	1995年3月	犯罪心理学研究, 33, 36-37.	共著: 紀・今村・藤岡・寺村 非行少年のロテストデータを一般少年と統計的に比較し, 処遇上の課題等を考察した。
11. ロールシャッハテストによる中学生非行少年の人格特徴に関する研究(3)	共著	1995年3月	犯罪心理学研究, 33, 34-35.	共著: 紀・今村・藤岡・寺村 非行少年のロテストデータを一般少年と統計的に比較し, 処遇上の課題等を考察した。
12. ロールシャッハテストによる中学生非行少年の人格特徴に関する研究(2)	共著	1995年3月	犯罪心理学研究, 33, 36-37.	共著: 紀・今村・藤岡・寺村 非行少年のロテストデータを記述統計レベルで一般少年や海外データと比較し, その特徴を考察した。
13. ロールシャッハテストによる中学生非行少年の人格特徴に関する研究(1)	共著	1995年3月	犯罪心理学研究, 33, 34-35.	共著: 今村・紀・藤岡・寺村 非行少年のロテストデータを記述統計レベルで一般少年や海外データと比較し, その特徴を考察した。
(演奏会・展覧会等) 1.				
(招待講演・基調講演) 1.				
(受賞(学術賞等)) 1.				

研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1.						
(学内課題研究(各個研究)) 1.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.						